

■ ウィンターオーバーシーディングを成功させるためのポイント

1. 草種・品種の選定

ウィンターオーバーシードを行うに当たって、“トランジッション重視”型、“ターフクオリティ重視”型の2つの目的に大きく分けられ、各々の目的に合わせた草種・品種の選定が成功の第一のポイントです。

目的	草種	品種	播種量 (g/m ²)
① トランジッション重視	アニュアルライグラス	フェアウェイ	20~ 80
② ターフクオリティ重視	ペレニアルライグラス	新発売 ビビットグリーン	25~100
③ ①②の両者の中間	アニュアルライグラス ・ペレニアルライグラスの混播	フェアウェイと ビビットグリーンの混播	40~ 50
④ 通年利用	ペレニアルライグラス	アドベント APM	25~100

新発売



12月の状況



5月の状況

ターフクオリティに優れ、トランジッションも良好なウィンターオーバーシード専用ペレニアルライグラス「ビビットグリーン」

(円内；5月上旬のトランジッションの状況、ベース芝：ノシバ)

トランジッションが極めて良好なアニュアルライグラス「フェアウェイ」

- ①ケンタッキーブルーグラス
- ②トルフェスク
- ③チューイングフェスク
- ④ペレニアルライグラス
- ⑤ペレニアルライグラス
- ⑥アニュアルライグラス「フェアウェイ」

2. 施肥

越冬前に養分を十分蓄積させ、冬期間の極度の色落ちを防ぐためにも播種当年に十分量の施肥を行うことが重要です。

基肥：主にリン酸質肥料（水溶性リン酸）を中心に施肥します。

追肥：窒素成分とカリ成分を重点に施肥します。

播種後1~2週間経過し、発芽が揃った時点から追肥を開始し、その後約2週間ごとに施肥を行います。ただし、1、2月は低温のため十分な施肥効果は期待できません。3、4月はトランジッション直前時期のため、原則として施肥は避けませんが、施肥が必要な場合は速効性の肥料を使用します。